

26.3.20

佐倉市

教育センターだより

Vol.32

平成26年3月20日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486)2400 [http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0\\_6.html](http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0_6.html)

## 学校とともに成長

佐倉市教育センター所長 林 輝 彦

「光陰矢の如し」と申しますが月日の経過が早く、今年度も残りわずかとなりました。ここでは、一年間の取組の中からいくつかご報告させていただきます。

### 1 学力向上に向けた支援

学力の向上に授業改善は欠かすことができません。教育センターでは授業改善の視点として、①めあてを明確にした授業②板書と連動したノート指導③目的のある小グループ活動の位置付け④自分の考えの根拠を意識させた授業⑤毎時間の授業評価等による授業づくりを推進してきました。このことは、平成25年度全国学力・学習状況調査クロス集計結果でも(1)授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動や授業の最後に学習したことを振り返る活動(2)学級やグループで話し合う活動や総合的な学習の時間における探究活動を積極的に行なった学校ほど、教科（特にB問題（活用）の記述式問題）の平均正答率が高い傾向が見られたとの報告がなされ、授業改善の視点は適切であったように思います。さらなる授業改善に向けて四月中旬に「授業アイディア集」を各学校に配付する予定です。



児童の考えを生かした板書

### 2 教室で進める特別支援教育の推進

今年度も特別支援教育担当指導主事が要請をうけて多くの学校を訪問させていただきました。「特別支援教育の視点」が各学校内にもたらされることで児童生徒理解の幅が広がるものと思います。授業規律を乱すなどの不適応行動の背景には大人が気付かなかっただけで、本当は何らかのつまずきがあったのかもしれないと考えてみることが必要です。集団指導の場を生かして「個への指導を充実」させていくこと、「一人のために」する配慮や工夫が「どの子にも」有効になっていくことが大切になります。教育センターでは、学習場面や生活場面において押えたいポイントのチェックリストや、個別の指導計画の作成手順等の資料がありますので、活用の際は声をおかけ下さい。

### 3 自尊感情調査の活用

不登校やいじめの防止は、取り組まなければならない喫緊の課題です。そのためには児童生徒の心の問題を理解することが必要です。その理解する方法の一つとして自尊感情の調査があります。この調査は感情表出の少ない児童生徒の理解、学級全体の児童生徒の心の様相を明らかにした上で効果的な学級経営や、積極的な生徒指導の一環として豊かな人間関係を形成する土壤づくり等に効果的であると考えます。児童生徒のよりよい成長を図るために自尊感情の調査方法を過日の会議で学校に紹介させていただきました。簡便に実施できますので、各学校で活用し児童生徒の指導に生かしてくださるようお願いします。

「教室は生徒を教えながら、教師である私も生徒に教えられながら、生徒が進むとともに、私もその日、何らかの意味で教師として成長する、そういう場所でなければならないと思います。」これは大村はま先生の『教えながら教えられながら』の一節です。私たち教育センターは学校とともに歩み、日々努力を重ねて成長し、「身近で頼りになる」場所でありたいと考えています。

最後になりましたが、この一年間教育センター事業にご理解とご協力をいただきましたことに感謝を申し上げますとともに、今後も佐倉市教育の向上・発展のために努力してまいります。

# 「平成25年度佐倉市教育センター等報告会」から

今年度の「センター等報告会」では、教育センターが取組んできたパートナーシッププロジェクトについて、各指導主事が報告しました。本ページでは、その一部を紹介いたします。

## 概要

- 会場 佐倉市立美術館 4階ハイビジョンホール
- 参加人数 76名（市民含む）
- センター等報告会（報告者及び報告内容）
  - 第1報告 「平成25年度佐倉市教育センターの取組の概要」  
－パートナーシッププロジェクトについて－  
教育センター 指導主事 水嶋 智巳
  - 第2報告 「『インクルーシブ教育システム構築』モデル事業」  
－1年目の取組をとおして－  
教育センター 指導主事 山本 健太
  - 第3報告 「不登校相談ネットワークづくりの構築」  
－佐倉市適応指導教室の取組－  
教育センター 指導主事 水嶋 智巳
  - 第4報告 「佐倉市学習状況調査を活用した取組」  
教育センター 指導主事 中村 千草

教育センターでは、調査研究・就学相談・教育相談・特別支援教育等を中心とした業務を行っています。その中で、今年度は、学校とパートナーシップを結んで実践した各事業の報告がなされます。本日報告された内容を各学校に持ち帰り、実態に合った積極的な活用をお願いいたします。さらに、佐倉市の教育がより一層充実したものとなるようお願いいたします。

【主催者挨拶をされる茅野教育長】



元佐倉市長渡貫博孝様からは、教育センター設立時のお話や教育センターが担う役割等について、お話をいただきました。さらに、「今後も佐倉教育ビジョンで示された、中・長期的な教育目標やめざすべき方向性のもと、佐倉の教育の充実を図るための一助となるよう教育センターの日々の業務をより一層充実させてください。」とご挨拶されました。

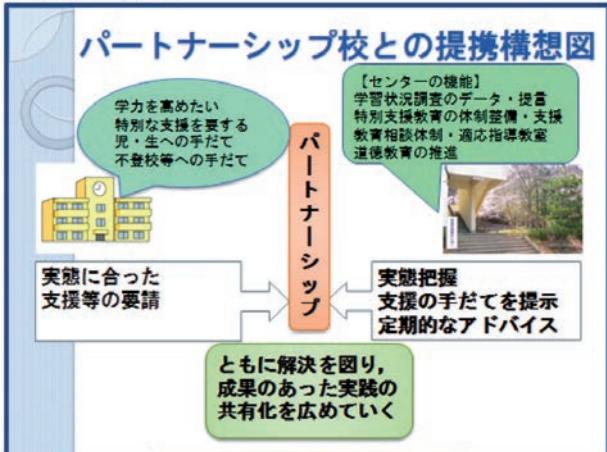
【来賓挨拶をされる渡貫元佐倉市長】



今年度の教育センターは、パートナーシッププロジェクト事業に取り組みました。具体的な取組は各指導主事から報告されますが、その取組の成果等、各学校の実態に合ったご活用を期待しております。そして、今後も時代のニーズに合った教育課題を取り上げ、その研究の成果を市内各校に広め、佐倉市の子どもたちの確かな学力の向上、豊かな心の育成につなげるべく、教育センター所員一同、誠心誠意取組んでまいります。

【所長 林 輝彦】

## 【報告内容】



### パートナーシッププロジェクト

各学校の課題を改善するために短期的・重点的にともに考え、支援する事業です。

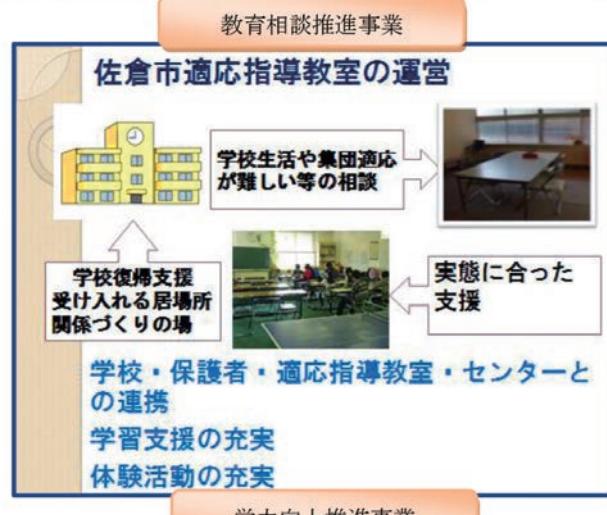
センターの事業である「特別支援教育推進事業」「教育相談事業」「学力向上推進事業」を中心にセンターの機能を生かした連携を図り、ともに課題を解決していきます。そして、取組の成果を、市内各校に広めていきます。

より身近で頼りになる教育センターをめざします。



### インクルーシブ教育システムの構築

各機関が次のステージに対して継続的に支援をつないでいくためのアイテム「佐倉市ライフサポートファイル」を導入し活用しています。そして、スクールクラスター（地域内の教育資源）を最大限に活用し、その時々の子どもたちの実態に応じて柔軟な対応を行っていきます。それが、特別な支援が必要な子どもへの合理的配慮となります。この取組をとおして、インクルーシブ教育システムの構築をめざします。



### 不登校相談ネットワークづくりの構築

- 手だて①学校・保護者・センターのネットワークづくり
  - ・学校訪問・保護者面談・相談員会議
- 手だて②個別学習支援の充実
  - ・個別の応援計画作成・チャレンジプリント
- 手だて③体験活動の充実
  - ・校外学習・創作活動・楽しい活動

これらの手だてをとおして、学校復帰への礎を作っていきます。



### 学習状況調査を生かしたパートナーシッププロジェクト構想

パートナーシップを結んだ各校の学習状況調査の結果から3つのプランを示しました。

- A：基礎基本の定着を図る取組
- B：授業改善に対する取組
- C：家庭学習についての取組

今後もこのような取組をとおして、成果を検証し、佐倉の教育の充実を目指します。

# インクルーシブ教育システム構築モデル事業 (スクールクラスター)

今年度から、佐倉市において、文部科学省指定「インクルーシブ教育システム構築モデル事業（スクールクラスター）」の研究に取り組んでいます。地域内の資源（学校等の機関や人）の有効な組合せ及び活用により、特別な支援が必要な子どもへの指導の充実を図ろうとする研究です。

1年目の今年は、言語通級指導教室に通級する児童への指導の充実を目指して、以下のような取組を実施しました。

- 研究推進組織（運営協議会・言語担当者会議）の立上げ
- 学校支援コーディネーターの配置
- ことばの教室リーフレットの作成
- 早期支援に係る幼稚園訪問
- ipad の導入及び ICT 支援員の配置
- 子どもの自尊感情に関する調査の実施



言語指導において iPad を効果的に活用し指導します。



学校支援コーディネーターが通常の学級での支援に入ります。

2年目以降の研究を推進していくにあたって

## インクルーシブ教育システムとは

障害の有無にかかわらず、**すべての子どもが可能な限り同じ場で学ぶことで多様性を認め合うとともに、特別な支援が必要な子ども一人一人の実態に応じた適切な学習環境の用意や支援を行うことのできる多様で柔軟な仕組みのことです。**

## 合理的配慮とは

特別な支援が必要な子どもが、他の子どもと平等に教育を受けることができるようするために、学校の設置者や学校が**必要かつ適切な変更・調整を行うこと**であり、子どもの状況に応じて学校教育を受ける場合に、**個別に必要とされるものです。**

すべての先生方に求められること

2年目以降の研究にご協力ください

- 言語発達をはじめ、特別な支援が必要な子どもを深く理解すること。
- 子どもの実態に応じた柔軟な就学に対応していくこと。
- すべての教職員が、特別支援教育充実のための専門性を向上させること。
- 特別な支援が必要な子どもが十分に教育を受けられるように、合理的配慮を意識した授業づくりを行うこと。・・・すでに実践されていることがたくさんあります。  
(例：書字が困難な児童に対して拡大したプリントを使用する。)

# “さくら”学びの窓

地域に誇りをもち、「生きる力」を育むための生活科・総合的な学習の時間  
～地域の教育力を生かした探究的な学習指導のあり方～

佐倉市立和田小学校

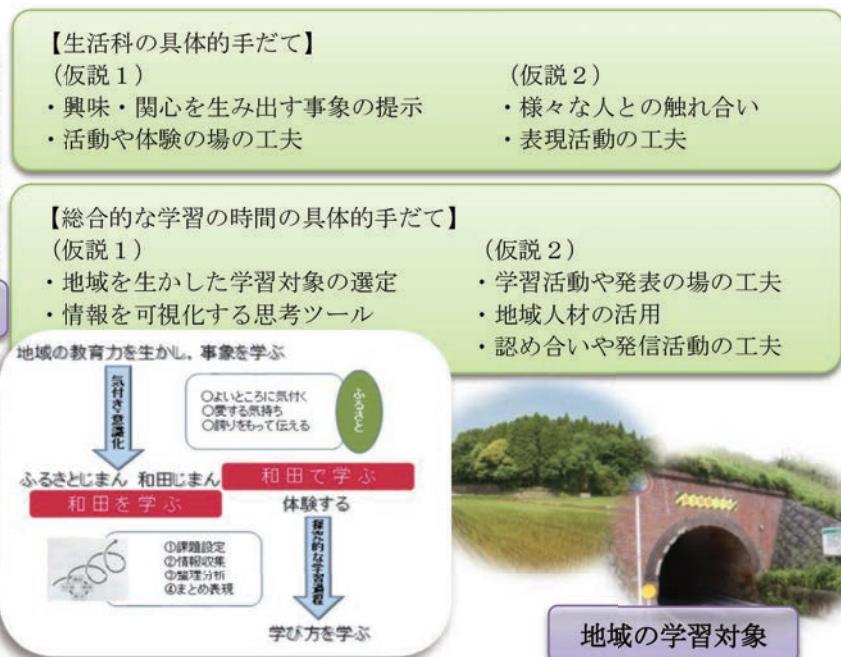
和田小学校では、地域の教育力を生かし、事象をとおして地域への気付きや意識化を図りながら、和田を学びました。また、体験する中で探究的な学習過程を取り入れ「学び方を学ぶ」研究に取り組み、「ともに心豊かに生き生きと活動する児童の育成」（学校教育目標）の実現をめざしました。



和田の森散策



大和芋学習資料



自ら社会とかかわり自分の考えを表現する児童の育成  
～仲間とともに学び合う活動を通して～

佐倉市立根郷小学校

根郷小学校では、自分の考え方や思いを言葉や多様な方法で表現できる児童の育成を図るために、仲間とともに学び合う活動を通して、問題意識を持たせることや言語活動を生かした学び合いを設定して研究に取り組み、自ら社会とかかわり自分の考え方を表現する児童の育成をめざしました。



友達とかかわりながら、学習発表会の練習をすすめる（特別支援）

【生活科の具体的手だて】  
○活動中に人々・社会・自然とかかわりをもつ場を設定する。  
○自分の考えを伝え合う場を設定する。

【社会科の具体的手だて】  
○身近な出来事や地域を取り上げ教材化し、じっくりと向き合う場を設定する。  
○学年に応じた体験・観察・調査活動をもとに話し合う場を意図的・計画的に設定する。



思考ツールを使って、調べた内容を整理していく（社会科）

名人になるための話し合い（生活科）

インタビュー計画の話し合い（生活科）

# 道徳教育の充実をめざして

～佐倉学道徳副読本『佐倉の道徳』の活用～

千葉県では道徳性を高める実践的人間教育を推進するため、子どもたちが郷土と国を愛し、豊かでおおらかに、そして自信にあふれた頼もしい人間として成長し、眞の国際人として活躍できるよう幼稚児童生徒の内面に根ざした道徳教育の充実に努めています。佐倉市においても、人材育成という視点に立ち、郷土の先人の生き方に学び、よりよい未来を築こうとする態度を養うために、佐倉学道徳副読本『佐倉の道徳』を刊行し、市内小中学校で活用を働きかけているところです。本年度の佐倉学道徳副読本『佐倉の道徳』の活用状況について、ご報告いたします。



## 1 年間計画への位置づけ

| 全中学校              | 年間指導計画への位置づけ(中学校) |       |        |    |     |        |
|-------------------|-------------------|-------|--------|----|-----|--------|
|                   | 全て位置付             | 一部位置付 | 26年度実施 |    | 検討中 | 検討予定なし |
|                   |                   |       | 全て     | 部分 |     |        |
| 計11校              | 18%               | 64%   | 27%    | 0% | 9%  | 9%     |
| 年間指導計画への位置づけ(小学校) |                   |       |        |    |     |        |
| 全小学校              | 全て位置付             | 一部位置付 | 26年度実施 |    | 検討中 | 検討予定なし |
|                   |                   |       | 全て     | 部分 |     |        |
| 計23校              | 30%               | 52%   | 17%    | 9% | 13% | 0%     |

### 1 調査結果より

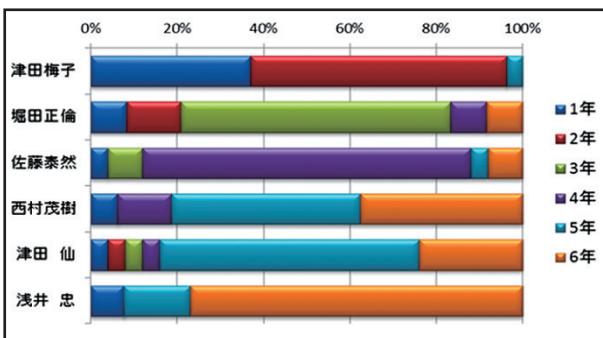
- ・8割の小中学校が年間指導計画に位置付けています。
- ・小中学校ともに「佐倉の道徳」を活用した道徳の授業を概ね実践しています。

### 2 今後のさらなる活用に向けて

- ・「佐倉の道徳」のさらなる活用に向けて、すべての学校が年間指導計画に位置づけて取組んでいただけますようお願いいたします。

## 2 資料活用状況

### <小学校>

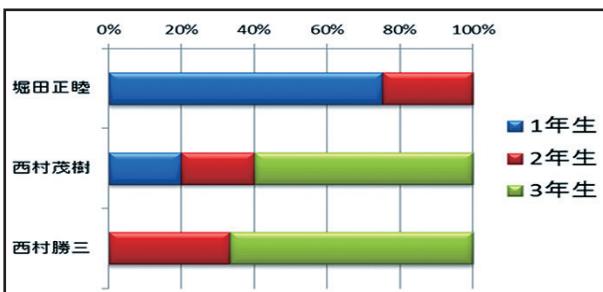


| H25年度 | 掲示資料使用 | 指導案活用 | 意欲的に取り組んだ | ねらいを達成した | 思いが深まった | 資料理解が困難 | 指導案改善 | 掲示資料不足 | 実践数 |
|-------|--------|-------|-----------|----------|---------|---------|-------|--------|-----|
| 津田梅子  | 57.7%  | 65.4% | 53.8%     | 23.1%    | 19.2%   | 30.8%   | 3.8%  | 11.5%  | 27  |
| 堀田正倫  | 52.0%  | 60.0% | 60.0%     | 28.0%    | 20.0%   | 20.0%   | 0.0%  | 0.0%   | 24  |
| 佐藤泰然  | 57.1%  | 64.3% | 46.4%     | 35.7%    | 21.4%   | 21.4%   | 3.6%  | 0.0%   | 25  |
| 西村茂樹  | 57.1%  | 78.6% | 57.1%     | 35.7%    | 14.3%   | 21.4%   | 0.0%  | 7.1%   | 16  |
| 津田 仙  | 71.4%  | 76.2% | 57.1%     | 42.9%    | 42.9%   | 28.6%   | 0.0%  | 9.5%   | 25  |
| 浅井 忠  | 58.8%  | 64.7% | 47.1%     | 35.3%    | 35.3%   | 23.5%   | 0.0%  | 0.0%   | 13  |

「堀田正倫」や「佐藤泰然」は、社会科『わたしたちの佐倉市』との学習関連を図ることができます。

低学年で津田梅子の資料理解は難しい、という意見があります。児童の実態に合わせ、時代背景の理解等、工夫が考えられます。

### <中学校>



| H25  | 掲示資料使用 | 指導案活用  | 意欲的に取り組んだ | ねらいを達成した | 思いが深まった | 資料理解が困難 | 指導案改善 | 掲示資料不足 | 実践数 |
|------|--------|--------|-----------|----------|---------|---------|-------|--------|-----|
| 堀田正睦 | 85.7%  | 85.7%  | 28.6%     | 57.1%    | 28.6%   | 14.3%   | 0.0%  | 14.3%  | 8   |
| 西村茂樹 | 100.0% | 80.0%  | 40.0%     | 60.0%    | 40.0%   | 40.0%   | 0.0%  | 0.0%   | 5   |
| 西村勝三 | 71.4%  | 100.0% | 28.6%     | 57.1%    | 71.4%   | 28.6%   | 0.0%  | 0.0%   | 6   |

小学校での学びから中学校でどのように資料を扱っていくか、4月に配付予定の指導案集を参考にしてください。

資料理解について、中学校でも生徒の実態によっては、時代背景の説明を加えるなど工夫が考えられます。

佐倉学道徳副読本編集委員の先生方のご協力をいただき、副読本を活用した指導案集を作成しました。新年度4月に配付する予定です。合わせて、佐倉学道徳副読本小学校版も増刷し、各小学校にお配りします。今後も、佐倉学道徳副読本のご活用をよろしくお願ひします。

### 編集後記

年度末も近づき、各学校において、今年度の取組を振り返るとともに新年度への準備が始まっていることと思います。今回は、「センター等報告会」を中心に教育センターが取組んできた事業について報告しました。佐倉の教育力向上の一助となるよう教育センターは、今後も努力してまいります。